



まえはらきょうすけ
前原杏亮さん

● 天明小6年
いつか
甲子園へ！

ぼくの将来の夢は、甲子園に出ることです。
ぼくは野球が大好きで、小学2年生のときから続けています。
テレビで高校野球の全国大会を見たとき、「いつか甲子園のグラウンドで野球がしたい！」と思いました。それから、きついタイヤ引きやピッチングの練習も、あきらめずにやれば自分の技術の向上につながると思って頑張っています。
野球部では個性の違う仲間と出会えたり、そんな仲間を支えられたこともありました。甲子園に出ることは難しいことだとは思いますが、これからもあきらめずに、日々努力を重ねていきたいと思っています。

**みんなの広場に
出してみませんか？**

「キラリ★話題の人」「すてきな仲間たち」「めおと人生」に登場していただける方を募集しています。自薦・他薦は問いません。
※「すてきな仲間たち」「めおと人生」は隔月で掲載します
■ 問合せ
政策調整課広報広聴係
☎(20)3037

めおと人生
meoto life

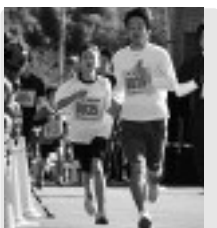
星野 和雄さん (72歳)
星野 和子さん (72歳) 閑馬町



Q ご結婚何年目ですか
A 昭和36年に結婚し、今年で51年目です。
Q これまでで印象に残っている出来事は
A 家族で林業を営んでいます。毎日を生懸命に過ごしてきましたが、子どもたち、孫たちに囲まれて、幸い健康に、楽しく過ごせてきました。
Q 夫9人の孫の中には、双子の孫もいます。孫は皆可愛いですが、まさか双子の祖父になるとは思っていなかったのです。二人で膝に乗せた時は特に感慨深いものがありました。
Q 夫婦円満の秘訣は
A 妻の心を通い合わせることでですね。同じ年・同じ地

思いやりを持つ心

域出身で以前からよく知っている間柄ではありますが、思いやりです。
Q 今後の抱負は
A 内孫たちが大学を卒業する3年後までは、このまま第1線で働き、暮らしていきたいと思っています。孫たちが卒業したら、次男が働くアメリカに二人で行くのが、目標というか楽しみですね。
Q 若者へのメッセージをお互いを思いやる心を持って、人との「絆」を大切にしたいと思います。お孫さんとの生活を楽しくそうに話すと二人でした。星野さんご夫妻、これからもお幸せに。



今回の表紙 「第7回さのマラソン大会」親子ジョギング

12月11日(日)、運動公園陸上競技場とその周辺を舞台に、第7回さのマラソン大会が行われ、親子ジョギングでは小学1年生から4年生の児童とその親が参加しました。親子は手を取り合って、2kmの道のりを駆け抜けました。
2011年の世相を表す1字は「絆」でした。親子で意気をお互い合わせ駆け抜けたことで、親子の絆がさらに深まったことでしょう。

やまぐち じん
山口 仁さん

(佐野市田沼福祉
コミュニティー運営委員)



キラリ★ 話題の「ひと」

○プロフィール
昭和9年小見町に生まれる。安佐地区の教員として勤務され、その後、田沼町教育委員会の社会教育指導員として人権の啓発活動に従事。現在は陶芸教室を運営されるなど幅広く活躍中。

人の絆に 支えられて

山口さんは人生のすべてを教育一筋に今日まで過ごされてきました。

平成6年に田沼町立東中学校を定年退職し、田沼町教育委員会の社会教育指導員(任期・平成6年から14年まで)として人権問題の啓発に力を注がれ、現在も活躍しています。

平成16年から20年までの4年間は、佐野市教育委員会の「自立支援教室」の教員として、痛みを抱えた子どもたちに歩み寄り、有り余る情熱を込めて子どもたちを愛し、慈しんできました。

「自分から心を開かなければ、相手の心を開くことはできない。心が開かれれば、支えあい、絆が生まれ人は強くなる」

山口さんが、大きな目を輝かせて、人が幸福に生きる道を話されると傍らにいる誰しもが笑顔になり、聞き入ってしまう。人の心を包み込む人柄のおおらかさでこれからも生涯教育に力を尽くしていただきたいと期待して止みません。

山口さんは退職後、日本の良き伝統文化を理解するために陶芸にも打ち込まれ、現在、小見町で陶芸教室を開いています。素晴らしい作品を



▲東日本大震災復興支援のための、チャリティー販売会。美津子夫人とともに

作り出し、そうした品々を販売し、社会福祉協議会へ寄付したり、東日本大震災復興支援のための寄付を行っているそうです。また、5年前より「草木染めと陶芸」の出前授業を行っています。

山口さんは「夢や希望を持ち、健康に留意し、人との出会いを喜び、あなたも私も互いに手を取り合つて、幸せに生きられる・生かされるよう努力し、チャレンジしていきたい」とおっしゃいました。

奥さまは佐野市茶華道協会会長として活躍している美津子夫人。ご夫婦ともども、多方面で活躍されています。

山口さんご夫妻、これからもお元気で。人々が幸福に暮らす社会の実現のため、よろしく願います。

(市民記者 河場)

市長からの メッセージ



新年明けましておめでとうございます。

昨年は、東日本大震災により被災された地域の方々に対し、多くの皆さんから温かいご支援・ご協力が寄せられました。被災地の速やかな復興をご祈念するとともに、皆さんからのご支援に心からお礼を申し上げます。

今年、本市は総合計画中期計画の折り返しの年を迎えます。リーディングプロジェクト「観光立市」を柱に、ブランドキャラクター「さのまる」をはじめとするブランド戦略を強化し、本市の魅力を全国に発信し、「住んでよし、訪れてよし」の佐野市を築いてまいります。また、北関東随一の交通の要衝である地の利を活かし、佐野田沼インター産業団地の造成や企業誘致に積極的に取り組んでまいります。

市役所本庁舎につきましては、震災の影響により仮庁舎に移転しておりますが、市民サービスを一刻も早く回復させるためにも、新庁舎建設を最重要課題として取り組みます。今後、設計を行います。市民の皆さんのご意見を参考に、防災拠点機能を有するコンパクトで利便性の高い庁舎を目指します。

来年は、田中正造翁没後百年を迎えます。折しも、産業振興と環境保全のバランスの再構築が求められている今こそ、顕彰事業の準備を進め、正造翁の功績を広く国内外に伝えてまいりたいと考えております。

今年辰年です。辰(龍)は、勢い盛んに天にも昇る力があるとされており。本市も辰にあやかりまして、北関東の中核的都市に向けて、勢いよく上昇する年にしたいと考えております。今後とも市民の皆さんのご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

岡部正英